

平成25年度 防衛大学校卒業式
防衛大学校長式辞

本日、防衛大学校本科第五十八期生四四八名、大学院理工学研究科前期課程六十八名、同後期課程六名、および総合安全保障研究科前期課程十名、同後期課程四名の諸君がそれぞれの課程を修め、卒業の日を迎えました。この中には、日本人と全く同じ課程を修了した留学生も本科で十四名、大学院前期課程で五名、後期課程で一名含まれています。

防衛大学校の教職員を代表して、諸君の卒業に対して心からの祝意を表したいと思います。

学生諸君、卒業、おめでとう

また、諸君をこれまで育み、支えてこられた御家族・御親族の皆様に対しましても、防衛大学校を代表して心よりお慶び申し上げます。

本日、この式典に際し、国務多端の中、安倍晋三内閣総理大臣、小野寺五典防衛大臣の御臨席を賜りましたこと、衷心より御礼申し上げます。総理大臣と国務大臣をお迎えできるのは、わが防衛大学校だけが浴する特別な栄誉であります。このことは、本校を卒業することの社会的責任の重さを表しています。

また、本日の卒業式には、御祝辞を賜ります、私の長年の友人でもある田中明彦国際協力機構 JICA 理事長をはじめ、数多くの御来賓の方々をお迎えすることができました。ここに本校を代表して、厚く御礼を申し上げます。

防衛大学校卒業式は、加えて、卒業生のホームカミングデーでもあります。本日は、防大を昭和四十六年一九七一年三月に卒業された永岩防衛大学校同窓会長をはじめとする第十五期生の先輩方が、これから旅立つ若き後輩たちのために全国から駆けつけてくださいました。ここに参集された先輩たちは、戦後の日本を陰で支え、今日の平和と安定の礎を築いてこられた縁の下の勇者であります。

青春時代の原点、小原台に、お帰りなさい。

あちらの方の席に、今、お座りになっておられますが、実は、席がたらずにモニターでこの会場を、今、御覧になってる先輩方もおられるかと思いません。ぜひ、拍手を送っていただけますでしょうか

昨年来、防衛大学校は一部の学生による国民の皆様の期待を裏切るようなきわめて残念な事案を生起させてしまい、この場をお借りして、まずはお詫び申し上げたいと思います。現在、われわれはこの反省に立ち、教職員、学生一丸となり防衛大学校の信頼回復のための取り組みを行っております。一

方、この過程におきまして、第五十八期の卒業生諸君はひと回り大きくなりました。

そうした状況の中で、さらに防大の教育、訓練、研究の将来のあり方を考える新たな高みプロジェクトを、私自身をヘッドとしてスタートさせました。防大の二十年後、三十年後を見据えた力強く野心的な試みが動き始めたことを皆様に御報告したいと思います。すべては、将来の日本を最後の砦で支えるスケールの大きな幹部自衛官をこの小原台から生み出すためであります。

卒業を控えた先月、後期学生隊学生長の河野健学生の発案によりリサイクル活動が始まり、アルミ缶八千個以上、ペットボトルキャップ七千個以上を集め、熱帯雨林の苗木八十三本分、ポリオワクチン十人分を寄付することができました。小さなことかもしれませんが、何らかの形で社会に貢献したいとする諸君の気持ちを多としたい、そう思います。

去る二月、私は海外交流の強化のためにタイとベトナムを公式訪問いたしました。両国からは、これまでも数多くの優秀な学生を留学生として迎えております。特にタイとの交流は五十五年余りに及んでおりまして、本科・研究科合わせてすでに二百名近い卒業生を出しております。現在のタイ軍のトップにも防大卒業生が入るような時代となりました。

先般、私がタイを訪れた折には防大同窓会を開催していただき、多くのタイ卒業生が家族同伴で参加してくれました。私が一人の卒業生に防大を卒業したことが貴方の人生にプラスになりましたかと尋ねたところ、防大はわが人生の最大の誇りですとの答えが直ちに返ってきました。胸が熱くなって、私は何も言えなくなりました。

今日、わが国を取り囲む安全保障環境は、周知のように厳しさを増しております。日本を含む世界が創り上げてきた、戦後の協調的な国際秩序・規範・価値観を力で変更しようとする動きがアジアの各地域で見られます。本日の卒業生諸君は、この厳しさを増す国際環境の中で国を守り、国民の安全と平和を守るという勇壮で気高い使命に一生を捧げることとなります。

国連平和維持活動に関しても、今後とも自衛隊の役割拡大に対する内外の期待は高まっております。また自衛隊に対しては、いつ起こるとも知れぬ国内外のさまざまな災害に対する緊急支援や復旧支援の面でも、絶大な期待と

信頼が寄せられています。自衛隊が時代に追いついたのではありません。時代が自衛隊に追いついてきたのです。

本日、卒業を迎える本科第五十八期生と研究科の諸君、時代は君たちを必要としています。新たな時代を創る社会の一員、そして先導するリーダーとして、諸君たちの人生の意味は極めて大きいものがあります。小原台での時間は終わりました。しかし、先ほど紹介したタイの卒業生のように、ここに学んだことを君たちの一生の誇りにしてほしい。私自身も、本科第五十八期生と研究科の学生諸君と同じ時間を小原台で共有できたことを心から誇りに思っています。

改めて、卒業生諸君、おめでとう。

平成二十六年三月二十二日

防衛大学校長 國分 良成